

第1回生駒市総合計画審議会（全体会）

開催日時 平成30年1月26日（金）10時～12時

開催場所 生駒市役所 大会議室

出席者

（委員）中川会長、久会長代理、高取委員、森岡委員、福谷委員、中谷委員、
谷中委員、藤尾委員、中山委員、村上委員、吉田委員

（事務局）坂本市長公室長、坂谷政策企画推進課長、岡村政策企画推進課課長補佐、
日高政策企画推進係長、片山政策企画推進係員、市川いこまの魅力創造課長、
大垣いこまの魅力創造課課長補佐

欠席者 楠下委員

議事内容

1 開会

2 諮問

3 案件

- （1）策定方針について
- （2）策定の進め方について
- （3）社会環境の変化と主要課題について
- （4）策定における検討事項について
- （5）団体ヒアリングについて

4 閉会

以下、発言要旨

1 開会

【事務局】 ただいまから「第1回生駒市総合計画審議会」を開催します。開会にあたり、坂本市長公室長よりご挨拶申し上げます。

【事務局】 （坂本市長公室長挨拶）

【事務局】 （資料確認）

2 諮問

- 【事務局】 本審議会に対して、諮問を行います。
(市長公室長から中川会長に諮問書を手渡す。)

3 案件

(1) 策定方針について

- 【中川会長】 それでは案件(1)「策定方針について」事務局から説明をお願いします。
す。
- 【事務局】 (資料1について説明)
- 【中川会長】 この件について、意見等はあるか。
- 【各委員】 (意見等なし)

(2) 策定の進め方について

- 【中川会長】 続きまして案件(2)「策定の進め方について」事務局から説明をお願いします。
します。
- 【事務局】 (資料2-1、資料2-2、資料2-3について説明)
- 【中川会長】 この件について、意見等はあるか。
- 【各委員】 (意見等なし)

(3) 社会環境の変化と主要課題について

- 【中川会長】 続いて、案件(3)「社会環境の変化と主要課題について」事務局から説明をお願いします。
をお願いします。
- 【事務局】 (資料3-1、資料3-2について説明)
- 【中川会長】 この件について、意見等はあるか。
- 【森岡委員】 これまで生駒市は、大規模開発に伴って宅地の整備は進んできたが、旧市街などは、インフラ整備が遅れているなど、置き去りにされているところがあり高齢者の交通手段が確保されていない場所があると思う。地域公共交通活性化協議会でも市内の交通網のあり方については議論されているが、公共交通機関をどう繋げていくか、それによって生駒市をどう発展させていくか

ということが、今後の大きな課題になってくる。そういう意味では、次の第6次総合計画の中でも触れるべきではないかと思う。

【中川会長】 どういう記述を入れたらいいのかということも含めて考えていきたい。国の責任でやらないといけない仕事、県の責任でやらないといけない仕事、民間の責任でやらないといけない仕事、市がやらないといけない仕事、とあるが、全て市単独では無理と、木で鼻をくくってしまうと大きなことは言えなくなる。どの程度、計画に書き込んで、周辺の公共主体に協力の要請まで導けるかが課題になるかと思う。

【久会長代理】 国全体で人口が減っていく中で、国交省も国土計画の中で、コンパクトシティ化を目指していくという言い方をしている。施設をいろいろなところで作っていくのではなくて、どこかに集中させて作っていく。でもそれをしてしまうと、取り残された地域が出てきてしまうので、交通ネットワークや情報ネットワークを使いながら様々な地域の生活の利便性を確保するという、コンパクト+ネットワークという考え方が主流になっている。生駒でコンパクト+ネットワークというのをどういう形で作っていくのか。施設をどこに集中的に作って、一方で施設がないところに対しては、その施設からのサービスをどのような形でそれぞれのご家庭に届けていくのかという考え方をこれから取っていく必要がある。そういう意味では、根本的に都市の構造の考え方を見直していくという時期に来ていると思う。また、今までは、施設を作って市民に施設まで来てもらうという考え方が多かったが、これからは、移動コンビニや在宅医療など、施設が持っているサービスをそれぞれの地域に移動させて提供していくという考え方をどれだけ取れるかが重要になってくる。施設に行くことだけではなく、施設が持っているサービスが住宅地の方にやってくるという考え方も含めて、柔軟に考えていけば、非常に面白くなると思う。また、中川会長がおっしゃったように、国の取組を待つのではなく、生駒が先進的なモデルを構築して、全国を引っ張っていくような、頭出しが第6次総合計画でできたら面白いなと期待してる。

【中川会長】 ありがとうございます。お二人から今後にとって有益なご示唆いただいた。コンパクトシティや都市構造の見直しは避けて通れないと思う。これからは何でも作れば良いというわけではない。何を縮小し、何を拠点化し、どのよ

うにそれらをネットワークで繋ぐかを考えない限り、都市として生き残って
いけない。ところが、生駒の場合は、さっき説明があったとおり人口がじり
じりと伸びてきたという経緯と都市イメージが非常に良いことから自意識が
強い。これはとても危険なことで、まだ危機はやってきていないと思ってい
るが、危機はあつという間に来ると思う。慢心や何とかなるのではないかと
いう考えをどうすれば払拭できるのか、今度の独自計画のカラーとして、き
ちとした危機感を延べたいと思う。関西の中でも生駒は危機意識が乏しく
かなり危機が深い。市民の中にも行政をたたいて揺さぶれば何とかなるので
はないかという発想がどこかにまで残っているのではないかと思う。これは
改めないといけないところだと思う。残り僅かの可能性と未来へのエネルギ
ーを使ってどういう風に転進を遂げるかという、大きな転換点にきている。
そこで久先生がおっしゃった都市構造と施設のあり方の見直しは非常に重要
な論点で、団体自治としての行政の機能だけを使って論じるのではなく、住
民自治としてのコミュニティの機能をどれだけそこにシフトできるのか、い
わゆる住民自治の役割分担をくっきりと出すべきではないかと思う。また、
コミュニティ政策についてもあまり進んでおらず、NPOの頑張りが、コミ
ュニティとジョイントしていない。NPOがどんどん孤立してしまっている
ように思う。一方で、NPO支援政策がどんどん先細りになっている傾向が
ある。上手く政策的につながっていないという危機を持っている。そういう
意味で、コミュニティとNPOの相互乗入の可能性を考えるべきだと思う。
今までのような、役所がやる仕事、地域がやる仕事、市民・個人がやる仕事、
に加えて、地域コミュニティの役割を出した方が良い。言葉だけになってい
るという危険性を感じるので、少し危機感を持って踏み込んでみてはどうか
と思う。

【久会長代理】 中川会長から危機感が出てないといった話があったが、ある市の都市計画
審議会で、コンパクトシティ化に向けた立地適正化計画とまち・ひと・しごと
創生総合戦略と総合計画で予想する都市像がバラバラであると指摘を受け
たことがある。しかし、これは一本化しなければいけないものではなく、バ
ラバラである理由がある。まち・ひと・しごと創生総合戦略は、こうなっ
たら良いなという夢物語を書いている。立地適正化計画は、シビアに人口が減

ったらどうなってしまうのかということを書いている。その中庸を取っているものが総合計画である。将来像を想定するのかということによって、かなりシビアなことが起こることに対してどうするのか、夢物語を組み込んでいくのか、中庸になったらどうなるのか、3つくらいのパターンを想定しながら案を煮詰めていくという方法もあるのではないかと思う。

【中川会長】 ありがとうございます。今後議論するときに、その幅の中で議論する自由が与えられたというように理解してもらえたらと思う。楽観論や悲観論ばかりではなくて、その幅の中で議論しましょうということ。

【福谷委員】 人口が少なくなってくると、いろいろなところに施設が分散しているとデメリットがあり、あるところに集中させるということはすごく効率的だという印象はある。しかし、若い世代はインターネットを駆使して情報を入手できるが、高齢の方だとそれが難しく、市からの通知なども受け取らない方が多いように思う。そういう方々に対して、支援できる体制も必要なのではないかと思うが、なかなか難しいと思う。

【中川会長】 非常に大事なご指摘だと思う。全部行政に責任を要求するのではなく、コミュニティ政策をしっかりとしていけないといけない。地域のコミュニティで顔と名前が分かり合える人間関係を形成していく努力をしないといけない。私自身の経験から言っても、広報紙や電話ではなく、対面でやり取りをするということが非常に重要である。それが地域で保障されているということが大事になってくる。そういう政策も入れていけないといけないと思う。

【久会長代理】 具体的な取組を紹介すると、行政がごみの収集をしていない町がある。それでもシステムが回っていることはすごいことである。どのようにしているかということ、町の一箇所にリサイクルステーションを作り、そこに町民が要らなくなった物を持ち込み、60種類程の分別でリサイクルに回るようにしている。この町でも、高齢化が進んでおり、リサイクルステーションまで持って行けない人もいるが、そのような方の分は、近所の方が持って行ってくれている。町役場はなにも動いていないが、地域で支えながらうまくシステムが回っている。先ほど中川会長がおっしゃったことが実現しているところもある。生駒市でも地域の中でみんなで支えるという気

風が出てくれば、不可能なことではない。

【中川会長】 夢物語ではないと思っている。税金払っているからといって、何か問題が起こればなんでも役所の責任にする妙なコンビニエンスストア型の発想になっているが、元々は地域と繋がりあうということが基本である。それでもできないことを行政がしていくというのが本来のあるべき姿だが、自分達がすべきことも全部役場に押し付けてしまうという逆転の発想になってしまっている。それをもう一回取り戻そうということだと思う。今回総合計画を策定するにあたって、やっぱり、住民自治の記述がかなりしっかり書かれていないと自治会町内会に頼ることや、いろんな団体をお願いしたいことが出てこないと思う。そこで今回案件5の「団体ヒアリング」というものをお願いすることになっている。お互いに学習し合いながら作っていこうという発想だと思う。このヒアリングは役所に対しての要望陳情苦情を聞くわけではなく、団体に対して何ができますかということヒアリングする。その基本姿勢だけは間違わないようにしていただきたい。行政と市民は対等だという考えをお互いに持つておこうというのがこのヒアリングだと思う。他にご意見等はあるか。

【各委員】 (意見等なし)

(4) 策定における検討事項について、(5) 団体ヒアリングについて

【中川会長】 続いて、案件4「策定における検討事項」と案件5「団体ヒアリング」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料4-1、資料4-2、資料4-3、資料4-4、資料5について説明)

【中川会長】 この件について、ご意見等はあるか。

【森岡委員】 資料4-1の2枚目の「5. 重点プロジェクトの設定と分野間での連携について」というところについて、書かれていることが良く理解できない。(1)「・・・次期基本計画においては、重点プロジェクトとして分野横断的な政策を掲げ、各分野から特出しした形で施策を一覧化する。」とあるが、これまでも報告の中で、担当課でないところの施策が書かれており、結局自分のところの施策でないので、答えられないといったことがあ

った。そのあたりも含めて書かれているのか、分野横断的な施策を全体で取り組もうとしている表現なのかよく分からなかった。

【久会長代理】 分野別に計画が書かれていくので、どこかに別に書いておかなければ、分野と分野の繋がりや施策と施策の繋がりという認識が抜けてしまう。この施策とこの施策が繋がってこういうものを実現するのですというような書き振りをしたいということかと思う。新たに別のものを作るのではなくて、もうすでに分野別に書いてあるものをパッケージにしたらこういうものができる、パッケージにしてこれを目指しますというような記述を今回新たに追加したいというように理解していただけたら良いと思う。

【事務局】 重点プランについては、茨木市の総合計画を参考にしている。小分野の枠を越えて重点プランとして記載することで、小分野の中のこことここが関わりがあるということを表現している。施策リンクについては、尼崎市の総合計画を参考にしている。別の小分野でも連携した取組が求められるものについては、それらがリンクしているものと表現している。このような手法を本市でも取り入れられないかと考えている。

【森岡委員】 これまでこの体系の中で議論していて、担当課が記載して述べているように見えても、実際に施策を運用しているのは別の担当課で、聞いてもよく分からないということがあった。そういうところの連携を取ってやっていこうという意味なのか。

【中川会長】 いつも指摘していることを今回反映しようとするのだと思う。部局間で連携しながら仕事をしないとだめなものたくさんある。いわゆる専門分野別の縦割りになっているのが従来の総合計画で、その壁を前回の第5次総合計画ではかなり指摘された。それを克服するためには、首長が推す政策や議会の要望が強いところばかりを重点施策として挙げるのではなく、むしろ連携を強めて、総合力を発揮しないとできない施策を重点化すべきではないか、という議論があった。この部分はそれに対応した記述であると理解している。これまでは、都市化の進展に応じて早くしないと大問題になるといった、客観条件に対応した重点項目はあったが、これからの重点というのは、いわゆる部局関連携、あるいは政策の複合的効果を狙うものではないのか、という意味で書いてあると理解している。

【森岡委員】 連携をすることによって、聞いても分からないといったことがなくなるのか。分からないので別の課がもっときちっと説明しますでは話にならないと思う。

【久会長代理】 茨木も尼崎も一緒に作らせていただいた。連携を盛り込むときにはいつも、書くのはいくらでも書けるが、実際に書くとなれば、本当に連携を取れるような体制を市役所の中でとってもらわないいけないという話をしている。生駒も今度連携を書くのであれば、体制づくりはしっかりとしてほしいと思う。今まで市役所の職員はプレーヤー的な方ばかりだと思う。これからは、いろいろなことを繋いでいくコーディネーターであったり、全体をマネジメントするマネージャーであったり、あるいは自分は動かないけれども、周りの人を動かすファシリテーターであったり、そのような役割を持つ職員や部署が必要だと思っている。今日来ていただいている、いこまの魅力創造課というところは、その役割を期待されていると思う。しかし実際には、誰もやらない仕事が集まったり、あそこに言っておいたらしてくれるという話になってしまう。そうならないためには、周りの部署がコーディネーター役として、その部署を見ていることが非常に重要である。連携を書くにあたって、コーディネーターやマネージャーといわれる部署がしっかりと役割を担えるような体制をとっていただきたいと思う。

【中川会長】 コーディネーターやマネージャーといわれる部署は、横つなぎの役を頑張っていたきたいと思う。重点事業は、市長の政策公約だから重点にすることではない。行政の総力を発揮する取組を増やしていかなければいけない。そのための政策の優先課題として緊急性も高く、そのような必然性もあるということで選ばれてきたということで理解すれば良いと思っている。他にご意見等はあるか。

【藤尾委員】 ボランティアの立場から言うと、行政の職員のコーディネート力が弱いと思う。団体に頼んでおいたら未来永劫やってくれると思われているところがある。私たちが力合わせて取り組んでいても、高齢化で大事なボランティアのやる気のある人がどんどん減っている。それが今の40代、30代に繋がっておらず、市民自治を謳う中でなり手不足に陥っている。と

りあえず今は地域力が保たれてはいるが、5年先では地域で担えるかどうか分からない。この火が消える前にどう住民を支えて育てていくのか、今がラストチャンスの時期にきていると思う。知らなかったで終わってしまう前に、行政職員にコーディネート力をもっと発揮してもらいたい。今日は本当に良い話を聞かせていただいてスツとしたが、これをスツとしただけではなく実現に向けて、この計画を作っていきたいと思う。

【中川会長】 ありがとうございます。いろいろといただいたご意見を踏まえていただいて、事務局で微調整するべきところは整理していただきたい。ヒアリングの日程については、各団体代表の委員と事務局とで調整していただくことで、よろしいか。

【各委員】 (了承)

【中川会長】 本日の会議の案件は終了しました。ほかに事務局から連絡事項はあるか。

【事務局】 (事務連絡)

【中川会長】 これをもって第1回生駒市総合計画審議会を終了します。

— 了 —